

「国際交流で私たちが経験し学んだ事」

佐藤 靖典

福岡市市民局スポーツ振興課 課長

1. スポーツは軽く国境を越える

1995年、夏。戦後50年の節目の年に、ユニバーシアード福岡大会は開催された。

1995年8月23日から9月3日までの12日間にわたり、ユニバーシアード史上最多の世界162の国と地域から、5,740人の選手・役員を迎え開催されたユニバーシアード福岡大会は、スポーツの素晴らしさと共に、多くの出会いと感動を残して終了することができた。

2. 大会を成功に導いた複合的エネルギー

ユニバーシアード福岡大会を成功に導いた原動力は、若い選手たちの限界に挑むひたむきなプレー、彼らの最高のパフォーマンスを引き出した各競技団体の優れた運営能力と共に、市民、地元企業、ボランティア、運営組織などが一体となった「今までの延長線上にはない取組み」が生み出した複合的なエネルギーであった。

3. ユニバーシアード福岡大会は都市戦略スポーツイベントであった

ユニバーシアード福岡大会は、単なるスポーツ大会ではなく、明確な目的をもった都市戦略イベントであった。また、国際社会、高齢社会となる21世紀を視野にいった、人づくり、まちづくりの壮大な実験の場でもあった。

つまり、ユニバーシアード福岡大会は、はじめから「スポーツ大会」をコアにしながらも、いわゆる「スポーツ振興」を第一義的な目的としたスポーツイベントではなかったのである。その都市戦略の主なものを挙げて見ると

1. 「アジアの交流拠点都市」をめざす福岡市の国際社会における認知度のアップ
2. 道路や競技・コンベンション施設、都市サインシステムの整備など都市基盤の整備
3. 大規模国際大会運営のソフトの蓄積
4. 国際社会の実感、異民族・異文化に対する市民の理解を深め、市民の国際化を図る
5. 市民の主体的参加、市民が主役になるシステムの模索

これらを通じて人づくり、まちづくりをすすめ、都市の活性化を図ることであった。

「福岡が世界の広場になる」という非日常的な状況に対して、行政システム、民間システムがどう機能するか。市民がどう反応するか、受け入れるか。ホスピタリティーを発揮できるか。いわば「都市の底力」が試され、確かめられ、評価されるイベントであった。

また、国際化と高齢社会の時代である21世紀をはっきりと視野に入れた「パイロットイベント」であった。

4. 「まちづくりの検証」としての国際交流イベント

イベントは、成功させてこそ意味がある。成功に向けて努力したエネルギーの総量がその後のまちづくりにつながるのである。また、ユニバーシアード福岡大会は、スポーツのすばらしさ可能性と共に、市民が楽しみながら参画し輝くことの素晴らしさも再認識させられた。その成果を今後のまちづくりに生かすため、大会最終日の95年9月3日「国際スポーツ都市宣言」をおこなった。福岡市にとって国際交流イベントは「まちづくりの検証」なのである。